



【教育 GP】原田先生フィールドワークゼミナール

琵琶湖博物館見学を実施しました！

6月27日（日）琵琶湖博物館の見学を実施しました。今年の2回生は、昨年に引き続き淀川一帯で漂着ゴミ問題をテーマにフィールドワークを行っています。今回は、「近畿の水がめ」と呼ばれる琵琶湖と琵琶湖博物館の見学を実施することになりました。

まず琵琶湖岸にて、琵琶湖草津湖岸コハクチョウを愛する会の事務局長である吉田様による青空教室を開催していただきました。コハクチョウを愛する会では、本日が定例の湖岸清掃の日だったので、朝からボランティアのみなさんが回収されたゴミの実物も見せていただきました。1時間程で、70Lのゴミ袋に25袋も集められたそうです。琵琶湖ではこのほかにも釣り糸やルアーが野鳥にとって大きな危険となっています。それがもとで命を落とす白鳥も少なくないそうです。またボロボロになったルアー（特にワーム）が水質に与える影響も無視できないということです。



さて、その後は実際に湖岸を歩いて現場見学を行いました。ヨシが覆い茂っていてとてもきれいにみえますが、実はヨシの間はゴミだらけです。また、琵琶湖にも外来水生植物が沢山います。

現場見学の後に、これから学生が始める微細プラスチックゴミのサンプル収集を少しだけ練習しました。琵琶湖では、大量のレジンペレットと人工芝の破片がとても目につきました。

次は琵琶湖博物館の見学です。最初に琵琶湖の湖底を歩くかのようなトンネル水槽があります。その後の展示も皆熱心に見入っていました。この博物館のもう一つの特徴は、魚の展示だけではなく、人と琵琶湖のかかわりという環境史の側面の展示も充実していることです。上右の写真は、彦根にあった農家を移築したのですが、博物館が完成したころ、ここを訪れたおばあさんが、ごく普通に（展示物である）離れのトイレで用を足していった、というエピソードがあるそうです。それを伝え聞いた、展示を監修された嘉田由紀子・現滋賀県知事は、昔を知るおばあさんに、そういう風に展示に接してもらったことがうれしかったそうです。

今回の琵琶湖見学では琵琶湖の現状と環境史等について学ぶことができました。